

人権だより

No.292(2022.6)

他人事ではなく自身のこととして

事務部 常葉 竜司

先ごろネットニュースで話題になったアカデミー賞授賞式での平手打ち事件をご存じでしょうか。

概要は、ジャンルを問わず出演作がメガヒットを放つ、アメリカを代表する俳優のひとりであり、映画プロデューサーやラッパーとしても活躍するウィル・スミス氏がアカデミー賞の授賞式で、脱毛症に悩む妻の短髪をジョークのネタにしたプレゼンターに対してステージ上で平手打



ちしたというものです。その行動の是非についてしばらくそのニュースがネットを賑わせました。スミス氏に同情的な声も多くありましたが、その一方で、「どのような形であっても暴力は決して認めるべきではない。」と暴力をふるった彼に対して厳しい批判が集まりました。結果、彼は公式に謝罪をすることとなり、社会的制裁も受けました。

自分の前で大切な人や身近な人が侮辱されたり、言葉により傷つけられたりする場面は日常でも起こりうるのだと思います。そのような場面で、皆さんは、どのような考え方をし、どのような行動を起こしますか。暴力に頼ることなく、「自分は不快に感じた」「人を傷つけるようなジョークはよくない」ときちんと伝える。あるいは、「今後そういったジョークは控えてほしい」と相手に抗議する。

このように相手のよくなかった部分を丁寧に伝えられるのが理想的だとは思いますが、容易なことではありません。手は出さなくても、相手と激しい言葉のやり取りを交わすことになるかもしれません。また、当事者ではなく第三者としてその場に居合わせたらどうでしょう。何も言えずに固まってしまうのではないかと。周りが笑っていたら、違和感を覚えながらも一緒に笑っていたりはしないでしょうか。

世の中には、毎日たくさんの情報があふれています。これらを通して、わが身に降りかかった時にどう考え、どのように行動すべきか。優先すべきは、何なのか。様々なことがら、事柄を他人事ではなく自身のことと捉えて考えておくことが大切なのではないでしょうか。

【人権委員の声】

相手のよくなかった部分を言葉で伝えることができれば、誰も傷つかない、良い方法だ
などと思います。でも、言葉でいくら伝えても相手が変わってくれないなら、どうしたら良い
のかということを考える必要があると思いました。(1年 人権委員)

第三者の立場の人々は、人の意見を聞いて自分の考えをまとめるだけでなく、日頃から
自分が当事者意識をもって、考えることがこのような問題の解決につながるのではない
かと考えました。(2年 人権委員)

この事件のことは知っていましたが、私がウィル・スミス氏の立場だったら、何もできずに
いると思います。それでも平手打ちという行いは暴力として批判されても仕方ないと思
います。もしこういう事件があったら、暴力ではなく言葉で表現しなければならないと思
いました。また、文章にあるように、「他人事」ではなく「自分事」して考え、人のことを考
え、言われたら嫌なことは言わないようにしたいです。(3年 人権委員)

私はこのニュースを見たとき、大切な人を侮辱された人からすると、発言は許せないも
のであり、このような行動は仕方ないのではと思っていたが、やはり暴力に頼ることはい
けないことだと、様々なコメントや社会的制裁を受けたスミスさんの姿を見て思った。自
分や大切な人が傷つけられたときに、とるべき行動は何か、正しいことは何か考えられる
人間になりたい。(4年 人権委員)

自分が発することには責任を持ちたいと思った。気を付けて相手と話していても、もしか
したら聞いている側に不快な思いをさせているかもしれないということを入念に入れて、人
と接していきたい。今回の内容は世の中で起きている一部のことで、まだまだ人権問題
はあるので、身近なことから人権について考える機会を増やし、考えていきたいと思っ
た。(5年 人権委員)

目の前で人が侮辱されていたら、自分なら違和感を抱くだけで言葉を出せないかもしれ
ないと思った。しかし、第三者の立場に自分がいたとしても、他人事だと思わずに、勇
気ある行動や正しい行動をすることが大切だと思った。(6年 人権委員)

人権教育相談部より

職員室の入口にある掲示板「人権教育部コーナー」の隣に、人権委員会の活動
報告コーナーができています。人権委員会の活動として、中庭にひまわりを植えたこ
とや、「ひまわり」という花を選んだ理由と、種をまいたときの様子を紹介しています。
先日、6年生の有志がひまわりの育つ花壇に看板を作ってくれました。ぜひ花壇を訪
れてみてください。